



図書館だより



11月号

大鳥中学校

秋も深まってきました。読書には最適な季節です。

学校図書館は、みなさんにとっていちばん身近な図書館です。魅力ある本が多くあり、豊かな読書経験を重ねることができます。自分がどんな本が好きなのか、どんなことに興味を持っているのか、たくさんの中の本に出会うことで気づくことができます。本を選ぶことは楽しくもあり、難しくもあります。居心地のいい学校図書館で、読み継がれてきたロングセラーの本を手に取ってみるのも良いでしょう。それらは時代を経ても生き残ってきただけの力がある本だからです。



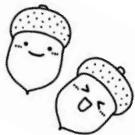
からだも心もあたためて…☆彡

素敵な詩を紹介します。

「秋のおたより」 金子みすゞ

～山から町へのお便りは、柿の実、栗の実、熟れ候
ひよどり、つぐみ、なき候 お山はまつりになりに候
町から山へのお便りは、ツバメがみんな去に候
柳の葉っぱが散り候 さむく、さみしく、なり候～

集中しやすいこの季節に、本を手にしてみましょう。たくさん読まなくてもかまいません。言葉が持つ美しさや力強さ、素晴らしいさをじっくり味わってみましょう。





「モミジ」と「カエデ」の違いは?



モミジを漢字で書くと「紅葉」が一般的ですが「黄葉」と書く場合もあり、この場合は字が示す通り、赤く染まる葉を「紅葉（こうよう）」、黄色に染まる葉を「黄葉（こうよう、おうよう）」として区別します。なおこの場合、褐色に変化する葉は「褐葉（かつよう）」と呼ばれます。ただ実際には、これらを総称して「紅葉（こうよう、もみじ）」と呼ぶのが一般的となっています。

『もみじ（旧仮名遣い、もみぢ）は、上代語の「紅葉・黄葉する」という意味の「もみつ（ち）」（自動詞・四段活用）が、平安時代以降濁音化し上二段活用に転じて「もみづ（ず）」となり、現代はその「もみづ（ず）」の連用形である「もみぢ（じ）」が定着となった言葉である。』【ウィキペディア「紅葉」より】

この説明からも分かる通り、「もみじ」という言葉は本来“特定の樹木の名称”を表す言葉ではなく“葉が色づいた状態”を表す言葉。「もみじ」の語源が「紅葉する」の意の「もみつ」という動詞であることがその裏付けと言えそうです。というわけで、「モミジ」と「カエデ」の違いは?と尋ねられた際の回答例としては…

『便宜上カエデのことをモミジと呼ぶことはあっても、生物学上で厳密に言えば単に「モミジ」という「種」の植物は存在しない。』あるいは、『葉が赤や黄色に変わる樹木すべての総称が「モミジ」。カエデはその中の代表的な樹木の1つ。』といったところでしょうか。

Recommended Book

913.セ 「あと少し、もう少し」瀬尾まいこ著 新潮文庫

陸上部の名物顧問が転勤となり、代わりにやってきたのは頼りない美術教師。部長の榎井は、中学最後の駅伝大会に向けてメンバーを募り練習をはじめるが…。元いじめられっ子の設楽、不良の太田、頼みを断れないジロー、プライドの高い渡部、後輩の俊介。寄せ集めの6人は県大会出場を目指して、糧をつなぐ。あと少し、もう少し、みんなと走りたい。涙が止まらない、傑作青春小説。